

はくかんさん

ホタル

第82号 H24年夏号

伊豆市 法住寺 発行

知らせが入ったとのことだった。

*

繁春さんはお寺にとつて掛け替えのない方である。先代ご尊父の後を継いで三十歳になったばかりから七十歳の半ばまで四十五年間お寺の役員をお務め下さり、その間総代十一期三十三年間、護持会副会長、会長と重責を担って頂いた。もうこの経歴だけでお寺にどれだけ尽くして下さったかお分かりになると思う。しかも大きな事業の度ごとに、檀家さんをまとめ先頭に立って汗を流してくださいました方である。

*

その夜お寺の近くで会合があり、田んぼ道を歩いて帰った。途中まで来るとあぜ道から、ほわあ、ほわあ、ふわあ、小さな明かりがあちらからこちらから。ホタルだ、思いがけないことだった。近年ホタルが見られるようになったのは知っていたが、六月にならないにもう飛び出した。私のふる里にホタルが飛んでいる、もう嬉しくて、嬉しくて、しばしホタルを追っていた。しばらくすると不思議な想いになった。自分と周りの自然界とが一体になったような、何か解き放たれて体がふわあつくと軽くなったような感じだった。「魂が解放されるって、こういうことかな。宮沢賢治の世界ってこういうものかな」と思った。

お寺に帰ると、女房が「いい、落ち着いて。びっくりしないで」と、動転している様子。今しがた伊東繁春さんが亡くなったという

に繁春さんに違いない、そう思った時、「そうだったのか」と深い想いにいたった。

*

私は毎朝、六時過ぎから大太鼓をたたき、この本堂、境内、墓地をはじめこの地が清浄になりますようにとご祈念している。たたきながら「私が南無妙法蓮華経になりきれますように」とも祈願している。云い替えば「私が大自然と一体になれるように」と云ってもいい。

*

「そうだったのか」、先日夜のあぜ道のホタルは繁春さんだったんだ。

お通夜が終わってお寺に戻り玄関を入ると、迎えに出た女房が「あれ、何かしら？」と不思議そうに足元を見つめた。見ると私の袴の裾にホタルがジッと止まって光っていた。しかも何時までもジッと止まっていたのだ。境内にホタルが飛ぶことはなく、しかも駐車場から玄関までは僅かの距離、その間にホタルが止まったのだ。不思議なことだった。



私の袴にホタルが

「このホタル、きっと繁春さんだね」と女房。云われてみて確かに、確か

私が小さい頃から何時もお寺にいてくれ、お寺のことは勿論、個人的にも結婚の相談やら随分お世話になった。最後の最後まで私を導いて、大自然と一体になるという、私が願う境地にホタルとなって導いてくれたんだ。何と不思議なことか。本当に、ありがとうございました。これだけのご恩は、今生ではとてもお返しできない。次の生、またその次の生に渡って、報恩感謝し続けようと思つた。

*

そして今、お通夜の後で光を出し続けじつと袴に止まっている。きっと「後生のことは

お寺の庭に花いっぱい

昌子寺庭の山務日誌より

頼むよ。」そう頼まれていたのだと思う。

お盆を迎えて

春さき、お寺の庭にひっそりと白山吹きの花が咲きます。前年の春に咲いた花が黒い実をつけたまま冬を越して、次の春に清楚なつぼみと白い花を咲かせます。それは一本の枝に過去(実)、現在(花)、未来(つぼみ)を同時に表わしている花の姿です。

またよく見かける紫ランの花も冬の間はその伸びやかなカラんとした枯れた実となります。その実を刈らずに二、三本残して見て下さい。春になってその根元よりみずみずしい若芽が出て花を咲かせます。過去、そして現在が共にある、花の姿です。私は、そこにも「野にある花の教え」がある



白ヤマブキ



ヤマブキの実

ことを想います。ですから法事の折には、出来るだけ境内から採集した草花を控えめに野にあるように活かせることを心がけています。ただそれだけです。お詣りの方々が口々に「野の花ついでいいですね。心が安まるようです」等と言われます。

*

我こそはと咲かないけれど、ただ正直に、一心に咲いている姿。たとえ群れて咲いてもお互いに認め合って咲く姿が何かを示してくれているようです。めぐる季節の中で、花に教わり花を通して人の心を大切にしていきたいと改めて想います。

伊東繁春さまのご逝去

護持会顧問、伊東繁春さまが五月二十四日ご逝去されました。行年八十五歳。

昭和三十六年から平成十三年までの間に、総代十一期三十三年間、世話人二期六年間、護持会長二期六年間お務め頂きました。書院新築、第二墓地造成、境内拡張と大きな事業が続く中、檀家の先頭に立って汗を流し、本堂建立の道筋をつけて下さいました。

また信仰厚く各種行事、団参など進んで参加され物心ともにお寺を支えてくださいま

した。これらの功績に対し全檀家の気持ちを生花に託してお供えし、山下一護持会長が参列、焼香致しました。

法号「耀徳院法護日繁大居士」霊位、心からご冥福をお祈り致します。

トピックス

花まつり



五月の連休最後の六日(日)恒例の花まつり法要がありました。一法要の後は、「マーキユリー フルート カルテット」のコンサート、4人の若い女性のフルート合奏でした。とても深みのある合奏で表現豊か。ピバ ルディーの四季などなじみのクラシックから、童謡メロディーと、皆さん自然に口ずさんでしまいました。コンサートの後は、お茶会。毎年、手作りの大福や小麦まんじゅ

う、ようかん等々、ご供養してくださる檀家さんがあり、甘茶いただきました。善い花まつりでした。

山門周辺整備等



山門の柱と柱をつなぐ横の材が腐りかけてきました。原因は雨だれで土が跳ねることのようです。そこで雨だれ予防などを含め山門周辺を整備しました。

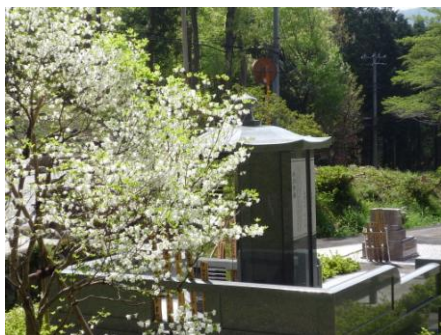


本堂西側は、境内整備作業で十二日講の皆さんに草取りしてもらってききましたが、細かい草で時間もかかりました。そこでコンクリートの歩道を作り防草処置をしました。



寿量の塔の入口は車椅子が入れるようになってい

が、急坂で危ないという指摘がありました。そこで入口を少し下からにしました。いずれは手すりをつけて安全に配慮していきたいと思えます。



ヤクナゲと、どの花も清らか、これから更に育てていきます。

身延山輪番奉仕

六月二十四日、今年も二十三名もの大勢が参加、善いお詣りができました。輪番奉仕は日蓮大聖人のお墓を掃除し、お詣りする行事ですから、毎年お詣りするのが檀信徒のお勤めです。次の機会にはぜひ一緒に詣りしま

寿量の塔に赤ヤシオ、白ヤシオ

今年の春、寿量の塔に清浄な花々が咲きました。三月下旬アカヤシオ、四月下旬にシロヤシオ、五月中旬シ

この寺報はカラーでご覧いただけます。検索「寿量の会」の後、「お寺のおたより」でご覧ください。

しよう。

中伊豆立正会、大題目開催

七月七日



(土) 当山で開催され、本堂一杯のお詣りがありました。菩提寺は違っても、中伊豆の地の日蓮信者が集まり気持ちを合わせてお題

目をお唱えする、善い会でした。この立正会の会員は檀家さん全員となっていますので、皆さんでお誘いあって参加してまいります。

これからの予定

★お盆のお施餓鬼八月三日(金)午後三時

ご先祖さまをご回向します。ご家族でお詣りし、家の根や幹を大きくしていきますよう。

★寺子屋 八月七、八日(火、水)

今年はずりクライミングを行います。大きな木に登ります。詳しくは別紙案内をご覧ください。

ください。

★秋季彼岸 九月二十二日(土) 午後二時

★護法大会 九月三十日(日)

下田市、当地中伊豆の「きすい会」の太鼓、当山白龍会のメンバーも出演します。お近くの世話人さんかお寺にお問い合わせてください。

★池上方灯団参 十月十二日(金)

白龍会では今年も池上お会式、万灯行列に参加する予定です。皆さんも参加して元気をもらいましょう。

★お会式 十月二十八日(日)

★伊豆連合大題目

十一月、伊豆長岡最明寺、詳細は秋のお彼岸までにお知らせ致します。ご参加お願いします

御志納金「三月〜六月」

- 百万円 元村 伊東謙三殿 尊父葬儀砌
- 五十万円 川崎市 山下茂樹殿 尊父葬儀砌
- 五十万円 西 佐藤雄一殿 尊弟葬儀砌
- 二十万円 横浜市 栗竹信広殿 尊母七七忌砌
- 二十万円 三島市 三田恭司殿 尊父一七尊母一三回忌砌
- 二十万円 修善寺 森本信浩殿 尊父葬儀砌
- 十万円 清水 山下武志殿 尊父一周忌砌
- 十万円 西 山田安夫殿 尊父七回忌砌
- 十万円 大阪府 徳田稔殿 寿量の塔納骨砌
- 五万円 清水 山下克俊殿 尊母三三回忌砌

ます。



洋明さんのおはなし

妻が、子供たちに「またやりっぱなし！ちやんと片付けて！」と言っています。子供にとっては口うるさいことかもしれません。でも整理・整頓・片付けが出来ることはとても大切なことです。この注意も、時に仏さまからの有難い言葉ではないでしょうか。

*

そんな我が家の約束事の一つに『玄関の靴を揃える』があります。当たり前のようでいて、ちよつとの間だから、後でちやんとするからと思うと脱ぎっぱなしに。三日坊主と思うこともしばしば。

*

日蓮聖人は「火の如き行者は多いが、水の如き行者はまれである。：法華経の行者の信は水の如し」とおっしゃられております。火は一時燃え上がりますが、やがて消えてしまいます。水は昼も夜も絶え間なく流れていきます。法華経を信じる方は、火のように一時のものではなく、水のように常に絶え

間ない信仰が大切だということです。

*

これは信仰に限ったことではなく、自分たちの日常生活も同じことです。常日頃からの変わらない心掛けが大切なのです。

誰が見ていなくても、ちやんと仏さまは見てくれています。変わらない思いを持ち、毎日コツコツと積み重ねることが大切です。この記事を書きながら、まるで自分に言いっている気が…。

*

毎朝の庭掃除、誰も見ていなくても、落ち葉の多い日も、少ない日も、毎日同じ場所を掃くことが大切なんだと感じます。有難いことに、ちやんと仏さまは見てくれていて、時に変化の人(仏さまが姿形を変えた人)となつて「きれいになっていて、気持ちがいいですね」と言ってくれます。

*

今年もお盆の時期です。精霊棚を設ける際は是非お仏壇と玄関を掃除し、靴を揃えて、ご先祖さまをお迎えください。もしかしたら、ご先祖さまが変化の人となり言ってくれるかもしれません。「きれいになっていて、気持ちがいいですね。」